



小さい春みつけた

雪がとけ、福寿草たちは陽のあたる
庭先でかわいらしく咲きそろいます

NOBORIBETSU

広報
のぼりべつ

'93

4.1

No.510

■ 人口/57,122 ■ 世帯/20,459 (前月比=人口+32・世帯+24) 平成5年2月末現在

平成五年度市政執行方針



市長上野 健司 市政執行の方針を発表する

市民の熱い想いを 反映した、まちづくり

今、直面して いる二つの 課題

三月一日開会された平成五年第一回定例市議会では、市長は、平成五年度の市政執行を発表しました。

その中で市長は、「まちづくりは、このまちに住み、このまちを愛する市民一人ひとりの熱い想いが反映されたものでなければなりません。このため重要な施策や計画等の策定には、今まで以上に青年女性、お年寄りなど市民との懇談、各種団体との意見交換を行い、市民総参加の市政をすすめてまいります」と、市政の一層の推進を強調しました。

第一は不況対策についてであります。

今年度は老朽化している公共施設の補修を含め、まずもって公共事業の確保に努めました。また、基幹産業である観光の持続的な発展を図るため、観光協会が行う特別宣伝活動の強化を図るとともに、市としても独自の宣伝活動を展開することとしました。

第二は、次期総合計画、老人保

まいます。

第三は、大型継続事業の着実な推進についてであります。

懸案であった幌別小学校の校舎改築事業については、平成四年度に着手することができました。本年度は本体工事が施行されますので、児童の安全と学習に支障のないよう充分留意しながらすすめてまいります。

また、現在建設をすすめております総合福祉センターは、新年度いよいよ本体工事にかかりますので、内部設備、車両、備品等の整備、購入については、なお先進施設の例を研究して適切を期してまいります。

また、幌別バイパスと西通り立体交差事業が本年完成の見込みでありますので、早期の供用開始を期するとともに、市としても、より円滑で安全な交通が確保されるよう、市道西通りの改良促進に努め、また、現国道の利用・調整について、関係機関との協議をすすめてまいります。

なお、本年は、国連が提唱する「国際先住民年」であります。

本市には、アイヌの人たちのすぐれた文化や知的遺産が受けつがれております。これらを展示し、広く理解を求めることが必要であると考えますので、この年を契機に関係者の意見をお聴きしながら対処してまいりたいと考えております。

市政推進

方策

さて、私は、このような課題をふまえ、市政を推進するにあたって次の点に配慮いたしました。

第一は、組織機構の見直しについてであります。

本年は、増大する新たな行政課題に適切に対応するため、組織機構の一部を再編成することといたしました。

生活福祉部は、それぞれきわめて重要なおかつ幅広い分野を担当してまいりましたが、これからの福祉は、保健や医療と一体となったサービスの提供が求められることから、これに適切に対応するため二部に分割することといたしました。新設される市民生活部は、従来の戸籍・印鑑証明等市民生活に関する事務や環境衛生・環境保全さらには社会保障に関する事務を所管することとし、特に市民生活に係る情報サービスの向上を図るため住民基本台帳のOA化等の推進に取り組みこととしました。

保健福祉部は、地域医療や健康づくりに関する事務のほか、医療給付事務を除いた福祉全般に関する事務を所管することとし、今後は保健と医療と福祉が密接に連携したサービスの提供をすすめることといたします。

次に、本市の財政についてであります。

市税については、固定資産税や都市計画税が伸びて総体的には前年度比六・八パーセントの伸びを確保することができると見込みとなっております。

しかしながら、これまでも申し上げてまいりましたが、登別振興公社や登別市土地開発公社に多額の借入金を抱えているほか、公共施設の老朽化に伴う維持補修経費の増、更には、人口の高齢化に伴う保健福祉対策や立ち遅れている都市基盤の整備など、急を要する課題が山積しており、財政運営は極めて厳しい状況が続くものと考えられます。

このため、平成五年度の予算編成にあたっては、引き続き行財政の簡素効率化と経費の節減合理化を図るとともに、国が示している財政支援制度を有効に活用しながら限られた財源の重点的、効率的配分に徹し、景気対策にも配慮をして積極的な事業展開を行うことといたしました。

平成五年度の 主要施策

「たぐいまるい、産業の育成」

基幹産業である観光については、登別温泉、カルルス温泉と各テーマパーク等との相乗効果による観光客の誘致を図るため、観光宣伝活動を強化してまいります。本年、第三十回を迎える「登別地獄まつり」の新たな展開に対し助成してまいります。

また、登別温泉街の、主要幹線である登別温泉バイパス整備事業の促進を図ってまいります。

また、年々増加する外国人観光客の受け入れ態勢を整備するため、外国語の案内標識の設置や観光パンフレットを作成し、登別観光協会が実施する観光従事者の外国語研修を支援してまいります。

農業については、継続して農免農道の整備をし、新たに営農用水の整備のための調査を実施いたします。酪農経営の改善を図るため、乳牛の能力向上と乳質の改善をすすめる乳牛検定事業に助成するとともに、農畜産物の加工研究や観光農業に関する調査・研究をすすめてまいります。

水産業については、「つくり育てる漁業」を推進して漁家経営の安定を図るため、引き続き登別漁業協同組合が実施するエゾバカ稚貝移植放流事業、タコ産卵礁設置事業に助成するとともに、新たにを行うクロソイ中間育成事業を支援してまいります。

また、登別漁港と鷺別漁港の整備促進を図るとともに、鷺別漁港

関連道についても早期完成を期してまいります。

商業振興については、引き続き、中小企業相談事業に助成するとともに、商店街近代化のための設備投資等に対し、新たに、特別融資制度を設けました。

幌別地区の商店街近代化事業については、再開発事業による核店舗の建設は、平成六年一月には、建設に着手することとなりますので、積極的に支援をしてまいります。

北駅前通りの整備については、本年、中央町四丁目交差点から旧新日鉄社宅入口交差点までの事業着手が予定されておりますので、その整備促進を図ってまいります。また、地場産業の育成・振興を目的に開催される「産業フェア」について引き続き支援をしてまいります。

労働対策については、引き続き職業訓練センター事業に助成を行うとともに、勤労者特別融資事業の拡充を図ってまいります。

また、昨年十月に設立された「シルバー人材センター」について、支援してまいります。

道路の整備について、洞爺湖登別線は、観光地にふさわしい

るおのりある道路空間を創出する緑の回廊事業として引き続き整備されるよう、その促進を図ってまいります。

また、上登別室蘭線富士通りの改良整備については、用地取得に協力し促進に努めてまいります。

市道については、カルルス路線の改良舗装と二期計画へ向けた実施設計、千歳二十号線の改良事業を実施するとともに、登別地区市街地の環状線として整備をすすめている街路円山通りについては、引き続き二期計画の必要な調査を実施いたします。

生活道路については、計画的に路盤を改良して排水施設の整備、舗装をすすめることとし、緊急度の高い箇所から重点的に取り組んでまいります。

また、巡回パネル展や道路清掃等を通じて道路に対する愛着と関心を高める「アイラプロード事業」を引き続き実施してまいります。

河川改修については、ヤンケシ川、西富岸川の改修事業を引き続き実施するとともに、西富岸川については第二期計画へ移行するための調査をすすめてまいります。

公営住宅建替事業は、本年度緑ヶ丘団地の最終五号棟二十戸の建設に着手し、老朽化の著しい登別温泉団地の建替えについて必要な事前調査に着手いたします。



4号棟の建設が進む市営緑ヶ丘団地



スコアボードが設置された本年度完成の「川上公園野球場」

公園等の整備であります。

民のスポーツ、レクリエーションの場となる川上公園は、本年度野球場の残工事を行い、平成六年度全体事業の完成を目指し整備をすすめるとともに富岸地区土地区画整理事業地域内に児童公園を新設してまいります。

なお、**鷺別岬遊歩道**については、本年度展望広場と遊歩道を整備し完成いたします。急傾斜地の対策は、常盤町住宅密集地区の崩壊箇所について治山事業施工のための調査を実施いたします。

また、**登別温泉中央通り**については、既設構造物の老朽化が著しいため降雨時や雪害による落石の危険がありますので、本年度は調

交通安全対策に取り組みます。

旧墓地路線の歩道新設をすすめてまいります。

また、交通安全や防犯上必要な照明灯について、通学路などを重点として設置してまいります。

鷺別学田踏切の改良については、平成六年度の完成を目指しすすめてまいります。

また、冬季の坂道対策については、勾配のきつい坂道について砂箱の設置や特殊舗装を実施するほか、湧水利用による消雪が可能な箇所を調査を実施してまいります。次に、**生活環境の保全**について、幌別川周辺の環境整備は、隣接する公園等や河川敷の利用、更には

野鳥の生息地等自然と調和するふるさとの川として整備をすすめるため、関係機関や市民の意見を聴きながら全体の整備方針を検討してまいります。

また、緑化の推進のため、花いっぱい運動などを支援し、新たに緑化イベント事業を実施して、緑の相談、植栽指導などによる緑化意識の高揚に努めてまいります。なお、かねて市民から要望のある記念植樹についても実施してまいります。

水質汚濁防止は、家庭排水で河川を汚さない意識の啓発を図り、モデル地区を定めて「厨房残滓を流さない実践活動」をすすめてまいります。

ごみの減量と再資源化については、分別排出と資源リサイクルシステムの一層の定着を図るため、本年度新たに清掃指導員を配置し、ごみの排出や資源リサイクルの巡回指導を行ってまいります。

資源の回収に取り組みリサイクル協会に対し、新たに助成することといたしました。

また、雑ビンの円滑なリサイクルに資するため、清掃工場敷地内に雑ビンストックヤードを設置いたします。

千歳最終処分場については、埋め立て完了を平成九年と予定しておりますが、その延命について工夫をこらすとともに、閉鎖に伴う環境保全対策についても検討して

まいります。

更に、新処分場建設のため候補地の選定に係る調査をすすめてまいります。

なお、事業所から市の施設に搬入されるごみについては、適切な費用負担の導入について検討してまいります。

し尿処理施設については、基幹的な設備の老朽化が著しいことから大規模改修を実施いたします。

下水道の整備については、供用区域の拡大を図るため事業費を増額して促進し、事業認可区域の拡大を図る第三期計画と処理場増設のための調査に着手いたします。

上水道事業については、本年度をもって低水庄地域の解消を実現し、桜木町五丁目の未給水地域に配水管の布設を行います。

また、鷺別地区に配水池を新設

し、本年度は実施設計を行い、平成六年度の着工を目指してまいります。

消防については、引き続き職員増員、資器材の整備等消防体制の近代化とその機能の充実に努めてまいります。

また、救急体制については、救急業務の高度化を図るため職員の教育訓練を行うほか鷺別支署に救急車を配置することといたしました。なお、救急車が到達するまでの間の適切な応急手当は、救命率向上に大きな効果を発揮しますので、市民に対し、止血、人工呼吸、心臓マッサージ等応急手当の指導普及に努めてまいります。

テレビ北海道の室蘭局が開局されましたので受信できるよう、鷺別中継局に中継機器を設置し、順次整備をすすめてまいります。



下水道工事が進む常盤町3丁目

「うーおーい、
思いやりのある
まちづくり」

高齢者と障害者を対象とした入浴サービスや給食サービスなどのデイサービス事業に取り組み、新たに寝たきり老人に対する布団乾燥サービスを行うとともに、独居老人の孤独感をいやすため電話サービスに取り組みます。

ホームヘルプ事業については、保健婦とホームヘルパー等が連携したチーム方式を取り入れ、その充実に努めてまいります。

ショートステイ事業については、利用者が必要に応じて直接施設に申し込みサービスを受けることができるよう改善してまいります。

養護老人ホーム恵寿園については、入所者が快適な生活を送ることができるよう浴室、トイレ等の大規模な改修を行います。

また、一人でも多くの市民が参加できる福祉ネットワークを構築し、社会福祉協議会が行う小地域ネットワーク活動推進事業を支援してまいります。

また、地域福祉活動を支えるボランティアを養成しその活動を助長するため、先に設立されたボランティアセンターの事業運営に対し積極的に支援してまいります。

ヘルスパイオニアタウン事業を実施するとともに、疾病の早期発

見及び適切な早期診療をすすめるため各種検診を実施し、外出が困難な高齢者等の訪問指導等を引き続き実施いたします。

症状の安定により入院治療を要しない寝たきり老人等に対するリハビリ、看護、介護を行う老人保健施設の設置については、民間サイドで計画されておりますのでこれが実現されるよう市としても支援してまいります。

コミュニティ活動の助長については、公共施設整備方針に基づき地域に集会所のない若山町地区に老人憩の家を建設することといたしました。

また、老人クラブ連合会が計画している女性部の設立を支援してまいります。

市営墓地については、本年度新たに用地を取得し造成をしてまいります。

次に、累積赤字を抱える国民健康保険事業について、国は保険税の限度額を五十万円に引き上げることとしております。

国保会計が赤字の当市としては、医療費負担に見合う税収の確保を図る必要がありますが、限度額を五十万円にするには低所得者の負担が大き過ぎると考えられますので、今後なお検討することとし、本年度は据え置くことといたしました。

また、短期人間ドック受診者の負担額を従来の一万七千五百円から五千円に引き下げることといたしました。



本年秋完成に向けて工事が進む「総合福祉センター」

「創造性あふれる
開かれた
市政の推進」

行政事務の簡素効率化と市民サービスの向上を図るため、市民サービスに直結する住民基本台帳のシステム化に取り組み本庁・支所間のオンライン化で住民票、印鑑証明、戸籍謄本等が支所の窓口でも交付できるようにします。

更に、固定資産税の課税の基礎となる地番図等の図面管理をOA化し、固定資産の評価と課税事務の効率化を図ってまいります。

広報活動については、広報アンケートを実施するなどして市民の声を聴き、より親しまれる広報紙づくりをすすめるとともに、情報量の増大に対応するため増ページを行うことといたします。

職員研修については、職員一人ひとりが社会経済情勢の変化に対応できる感受性を養い、積極的に地域の課題に取り組み姿勢が必要でありますので引き続き道や室蘭テクノセンターに職員を派遣するとともに各種研修を計画的に行ってまいります。

「国際交流」

引き続き中学生と市民の海外派



英語指導助手による授業風景

遣事業を実施し、国際親善・友好を深めるとともに国際感覚を備えた人材の育成を図ってまいります。また、外国人観光客をあたたく迎え、市民との交流を促進するため、英語、中国語、韓国語の会話の手引きを作成し活用してまいります。

また、白石市との姉妹都市交流については、本年十周年を迎えることから、幅広い交流が行われるよう記念行事等取り組めます。また、情報化の進展は、市民生活に深く浸透し、広範なニーズが高まっておりますので、医療、福祉、生活環境、教育、産業など地域の実情に即した地域情報システムのあり方について検討してまいります。

平成五年度

教育行政 執行方針



教育行政執行方針を発表する
後藤教育長

(抜粋)

ユータを新たに幌別中学校及び鷺別中学校に導入し、改訂の趣旨が十分生かされるよう努めてまいります。

教職員の資質向上は、昨年引き続き文部省北海道教育委員会等の研究指定の制度を活用するとともに、新たに四校の指定を行い実効をあげるよう努めてまいります。

健康安全教育は、家庭や地域との連携を密にし、その充実に努めてまいります。特にアレルギー体質や持病についての確な実態把握とその対応を行ってまいります。

交通安全教育は、昨年度迄二年間実施してまいりました「交通安全教育推進事業」の成果をふまえ、学校教育の中に重点的に計画化するよう対応してまいります。また、近年エイズに関する課題が指摘されておりますが、中学校において従来の性教育の学習内容に盛り込み積極的に取り組むとします。

国際理解教育は、引き続き「外国青年招致事業」を実施してまいります。また、幌別中学校と富岸小学校が行っている海外との姉妹校交流活動を推進してまいります。更に、中学生による海外派遣事業を引き続き行います。

学校給食は、平成四年度実施した児童生徒の嗜好調査及びアンケート等をふまえ、献立・調理の内容の改善をはかってまいります。道徳教育・生徒指導は、学校、家庭、地域が一体となって非行の

防止に努め健全育成活動を推進し、豊かな社会性を培う態度を育てていくことに努めてまいります。

幼稚園教育は、小学校との関連を深めながら一層の成果をあげるよう努めてまいります。

障害児教育は、多様な体験やふれ合いを大切にした交流教育を積極的に展開するとともに、本年度新たに登別中学校に肢体不自由児童学級を設置することといたします。

姉妹都市との学校交流は、白石市との間において、引き続き「ふるさと豆記者訪問」、「ふるさとのまちを語る」交流事業を実施し、姉妹都市交流の輪が広がるよう、その素地の育成に努めてまいります。学校週五日制については、これまでの実績をふまえ引き続き、一中学校運営区を指定し、その研究を行うことといたします。

学校施設等の整備充実について、幌別小学校校舎改築事業は、周辺整備を残し、本年度末までに全面改築を終えることといたします。また、幌別中学校屋内運動場の、全面改築に向け、耐力度調査を実施いたします。

社会教育の充実、振興

芸術、文化活動の振興、文化遺産の保護・継承や、体育・スポーツの振興、学習活動を奨励、援助するため情報の提供や研修会、講座等の充実に努め社会活動に参加

できるような各種団体の育成をはかります。特に青少年が参加できる事業を積極的に取り入れ、健全育成の実をあげることに努めてまいります。

成人教育は、「知恵の派遣事業」の推進によって世代間交流やボランティア活動を通してまちづくりに参画する機会を広げるよう努めてまいります。また、婦人短期大学の学習内容の充実を通して自主サークルと婦人団体の育成に努めてまいります。

青少年教育は、豊かな心を育むため、多くの機会を通してその充実・育成に努めてまいります。また非行、いじめ等の対応については、防止から予防へと日常活動を積極的に進めてまいります。

芸術・文化の振興は、札幌交響楽団による音楽教室をはじめとする各種事業を行い、併せて、文化財の保護啓蒙のため郷土の遺産を広く市民に紹介するよう努めます。本年度は文化財審議会の答申を得て、物件の指定を行う予定です。

体育・スポーツの振興は、体育施設の整備や学校開放事業を推進し、各種スポーツ教室の充実や各種競技会への参加を奨励し、その援助に努めてまいります。

本年度は、生涯教育推進室を設置して五年目の節目にあたり、「ふるさと生涯学習フェスティバル」を開催し、更に生涯学習推進体制の整備充実に努めてまいります。

をはかり、より健康で豊かな生活を築きあげていくことに努めてまいります。

教育行政の重点事項

小学校教育は、昨年より学習指導要領の改訂に伴う教育実践が進められておりますが、本年度は特に生活科の実践的研究の自然環境を生かし、多様な体験活動を通して、身の回りの事象等に興味、関心を持つよう指導計画の創意工夫に努めてまいります。

また、中学校教育は、本年度は学習指導要領改訂の実施年にあたり、生徒の個性の伸長がはかれるよう努め、昨年に引き続きコンピ

私は、本年度の行政執行の基本姿勢として、個性と創造性に富む調和のとれた人づくりと、生涯にわたって市民が互いに学び合い市民の手によるまちづくりを標ぼうしてまいります。一層の支援をお願いいたします。学校教育にあっては児童生徒の特性や可能性を生かし、自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力などの能力の育成を重視する新しい学力観に立った教育を積極的に推進してまいります。

また社会教育にあっては、市民の文化への志向の高まりや生涯にわたってスポーツに親しむ機運の醸成をふまえ、多様な学習機会を創造し、自らの資質や個性の伸長

市民総参加のまちづくりに向けて 新年度予算スタート

3月1日開会された平成5年第1回登別市議会定例会で、平成5年度の予算が可決、成立しました。

平成5年度予算は、一般会計で198億6千5百万円、特別会計、水道会計を含めた総額は3百17億9千6百15万円となり、平成4年度の当初予算と比較すると12.2%増の積極型の予算。「たくましい産業の育成」、「住みよいまちづくり」、「うるおいと思いやりのあるまちづくり」を重点に、今後1年間のまちづくりに向けてスタートします。

〈たくましい産業の育成〉

- ◆観光宣伝活動事業補助金 3千5百万円
観光振興を図るため観光宣伝活動事業を充実するため観光協会への補助します。
- ◆第30回登別地獄まつり特別補助金 1千万円
登別観光最大のイベントである地獄まつりが今年30回目を迎え盛大に展開するため登別観光協会に補助します。
- ◆観光ポスター・パンフレット作成経費 1千万円
誘客促進を強化するための新しい観光ポスター・パンフレットを作成します。
- ◆視別地区商店街近代化推進事業費 5億2千7百10万円
市街地再開発事業による核店舗事業実施主体の登別中央ショッピングセンターに支援します。
- ◆「つくり育てる漁業」事業費補助金 8百75万円
エゾバカ稚貝移植放流事業、タコ産卵礁設置事業、クロソイ中間育成事業の実施団体である登別漁業協同組合に助成、支援します。
- ◆産業フェア'93インのほりべつ補助金 1百万円
「産・学・官」が一体となり地場産業の振興、地元経済の活性化及び地域社会の連携と協同の意識を向上するため産業フェア実行委員会に補助します。
- ◆シルバー人材センター補助金 2千5百80万円
高齢者の就労機会を提供し生きがいの充実を図るシルバー人材センターに対し補助します。

〈うるおいと 思いやりのあるまちづくり〉

- ◆総合福祉センター建設事業費 8億7千8百80万円
片倉町に11月完成する総合福祉センター建設事業(平成4年度継続事業)や、デイサービス事業、機能回復訓練等を行います。
- ◆若山地区老人憩の家新築事業費 3千8百64万円
集会所のない若山町地区に老人憩の家を建設します。
- ◆富浦墓地造成事業費 8千万円
富浦墓地の隣接地を新たに造成します。
- ◆視別小学校校舎改築事業費 6億8千6百58万円
本年度末までに校舎を全面改築します。
- ◆教育用コンピューター導入経費 1千6百23万円
視別中学校、鷺別中学校にコンピューターを40台導入します。

〈住みよいまちづくり〉

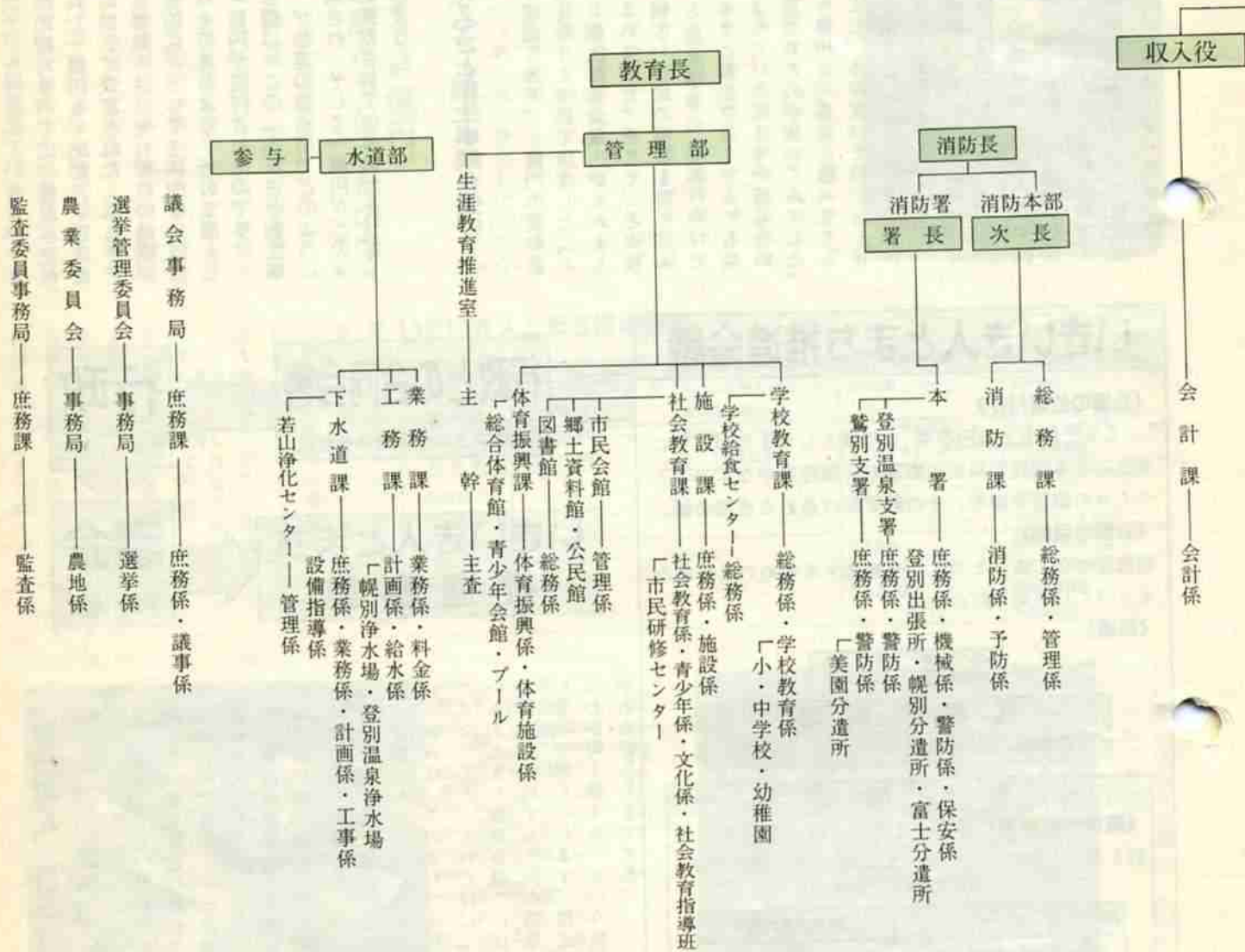
- ◆市道路線改良舗装事業費 1億6千9百万円
カルルス路線の路面改良と舗装事業・千歳20号線改良事業・鷺別学田踏切改良事業を行います。
- ◆市道舗装排水整備事業費 4億4千9百10万円
幹線排水路の整備や道路の舗装整備を行います。
- ◆公園事業費 3億6百89万円
市民スポーツ、レクリエーションの拠点の場となる川上公園の野球場等工事、富岸地区土地区画整理事業地域内に児童公園を新設や、鷺別岬遊歩道事業等を行います。
- ◆公営住宅建替事業費 2億8千7百31万円
平成4年度に着工した緑ヶ丘団地4号棟が完成するほか最終5号棟に着工します。
- ◆交通安全施設整備事業費 4千8百80万円
鷺別旧墓地路線や川上路線に歩道を新設します。
- ◆ごみ減量化推進事業費 7百32万円
ごみの再資源化事業への補助金や生ごみ堆肥化容器購入の方へ購入費の一部を補助します。また、ごみリサイクル事業を行います。
- ◆し尿処理施設整備事業費 9千8百8万円
設備等老朽化のため大規模な改修を行います。
- ◆公共下水道事業費 13億6千2百63万円
下水道の整備アップを図るため幹線管渠等の布設や若山浄化センター増築のため調査を行います。
- ◆上水道配水管布設事業費 2億7千40万円
低水圧地域の解消と鷺別地区のに配水池を新設するための調査を行います。

〈創造性あふれる開かれた 市政の推進〉

- ◆住民記録システム化経費 1千6百万円
住民票と印鑑登録の電算化を行います。
- ◆国際交流に要する経費 1千2百40万円
中学生海外派遣事業、市民海外派遣事業を引き続き行います。
- ◆いきいき人とまち推進事業費 5百万円
地域活動事業等を助成します。

(※文中金額は、千円以下切り捨て)

市役所のしくみが一部変わりました



平成4年度 交通安全 啓発作品

標語の部 金賞の作品

- ◇ちょっとまで赤い目玉がひかっている
- ◇赤おにもよく見てわたる青信号
- ◇信号をよく見てわたる登小っ子
- ◇だろうだろうが事故のもと
- ◇見落とすな赤信号と子どもたち
- ◇時間より命が大事ゆっくりと
- ◇いつもの道でも事故はある
- ◇そのあせりあなたの一生左右する

- 登別小2年 高橋玉実さん
- 鷺別小3年 吉井晴香さん
- 登別小4年 小林真希さん
- 登別小5年 横山末沙さん
- 鷺別小5年 中山洋二郎さん
- 鷺別中2年 肥田貴佳子さん
- 西陵中2年 柳田富美恵さん
- 登別中2年 萩野弥生さん

あの1億円 登別での生かし方

市民リポーター 大屋 二三枝

みなさんは覚えていますか。全国の市町村すべてに、国から交付された一億円を。昭和六十三年国において決定された「ふるさと創生事業」は、それぞれの地域が自主的に、そして主体的な地域づくりを行えるよう、その支援として一億円が交付されたのです。

今回は、この「ふるさと創生事業」が私達の登別市でどのように展開され、そして一億円がどのように生かされているのかをレポートしました。

「ふるさと創生事業を受けて」

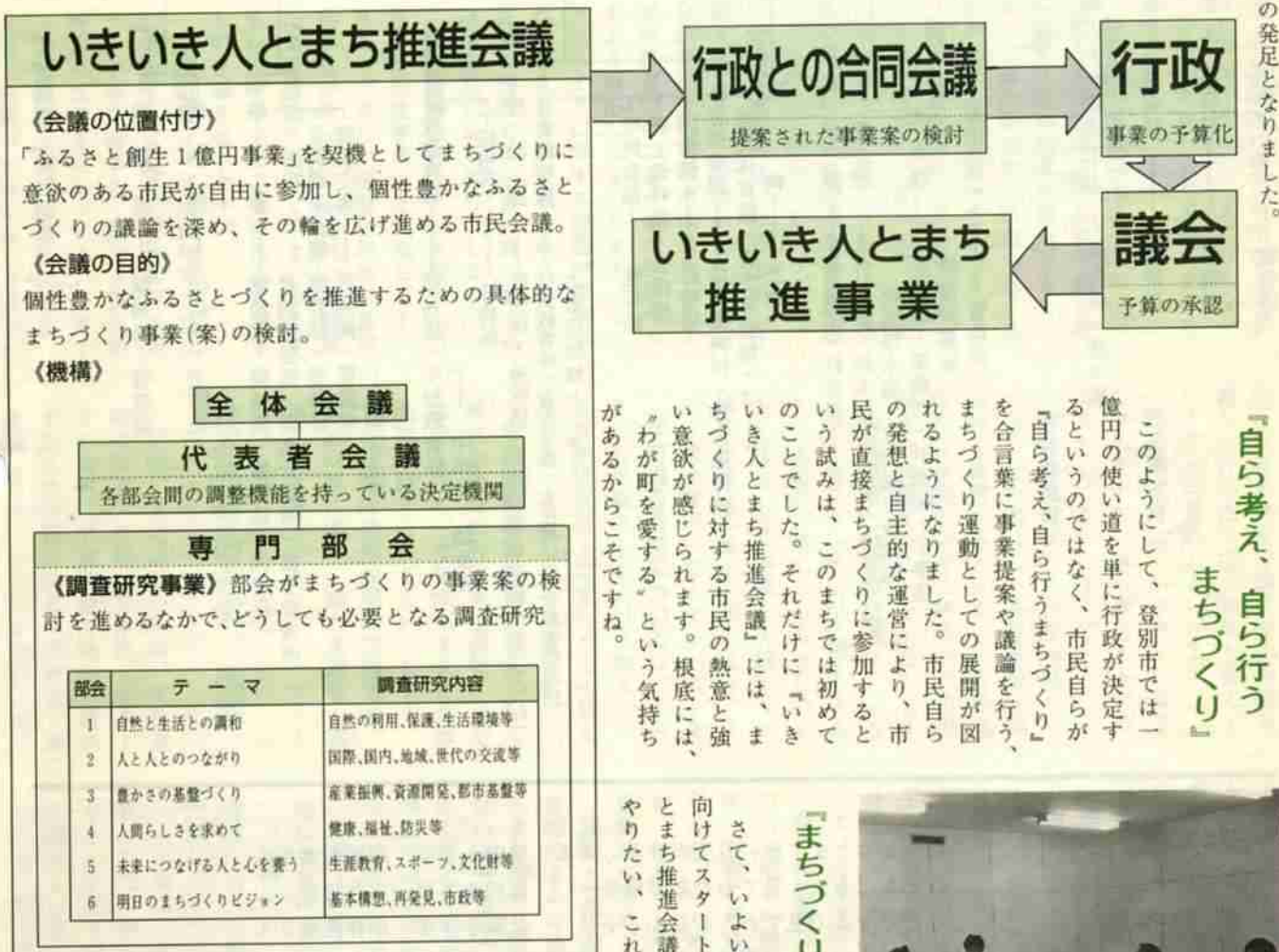
平成元年四月、一億円の使い道を考えようと市民で構成した「ふるさと創生推進会議」がこのまちに生まれました。そして、その後更に幅広い市民の参加を得て、ふるさと創生事業の決定に向けた「ふるさと創生フォーラム」も開かれました。ここまでの話し合いで確認されたのが次の二点でした。

一、一億円は、基金に積み立てることとし、本年度はその一部を使って事業を行う。(基金名は、「いきいき人とまち基金」)

二、具体的な使い道としては、人材育成に役立てる。

そして、具体的な事業内容を探るため、フォーラムに参加した人など、まちづくりに情熱のある人達が積極的に集まり三か月後の七月、「いきいき人とまち推進会議」

の発足となりました。



「自ら考え、自ら行うまちづくり」

このようにして、登別市では一億円の使い道を単に行政が決定するというのではなく、市民自らが「自ら考え、自ら行うまちづくり」を合言葉に事業提案や議論を行う、まちづくり運動としての展開が図れるようになりました。市民自らの発想と自主的な運営により、市民が直接まちづくりに参加するという試みは、このまちでは初めてのことでした。それだけに「いきいき人とまち推進会議」には、まちづくりに対する市民の熱意と強い意欲が感じられます。根底には、「わが町を愛する」という気持ちがあるからこそですね。

「まちづくりは人づくり」

さて、いよいよふるさと創生に向けてスタートした「いきいき人とまち推進会議」ですが、あれもやりたい、これも作りたいと言っ



いきいき人とまち推進会議代表者会議

ては收拾がつきません。ふるさとづくりをするために、何が一番必要かを考えた時、それは、誰もが建造物などの「形」ではなく、「人間そのもの」であると考え、私もそうでした。そして、登別市の場合も、自分達のまちを作り出すのは他の何でもない、

いきいき人とまち推進会議

〈会議の位置付け〉

「ふるさと創生1億円事業」を契機としてまちづくりに意欲のある市民が自由に参加し、個性豊かなふるさとづくりの議論を深め、その輪を広げ進める市民会議。

〈会議の目的〉

個性豊かなふるさとづくりを推進するための具体的なまちづくり事業(案)の検討。

〈機構〉

全体会議

代表者会議

各部会間の調整機能を持っている決定機関

専門部会

〈調査研究事業〉部会がまちづくりの事業案の検討を進めるなかで、どうしても必要となる調査研究

部会	テーマ	調査研究内容
1	自然と生活との調和	自然の利用、保護、生活環境等
2	人と人とのつながり	国際、国内、地域、世代の交流等
3	豊かさの基盤づくり	産業振興、資源開発、都市基盤等
4	人間らしさを求めて	健康、福祉、防災等
5	未来につなげる人と心を養う	生涯教育、スポーツ、文化財等
6	明日のまちづくりビジョン	基本構想、再発見、市政等

そのまちな人達なのです。まちづくりをするなら、まず人づくりからというわけですから、前述のフォーラムまでに確認されていた「人材育成」という基本事項にもうなすけますね。

「一億円が教えてくれたこと」

国から交付された一億円を巡ってふるさとづくり、まちづくりが行政、市民の間で展開され、登別初の市民会議にまで発展してしまつた「いきいき人とまち推進会議」。その会議も、今年で四年目となります。



いきいき人とまち推進会議
議長 楠本 賢一さん

とりが持つて欲しいと思います。その意味でも「いきいき人とまち推進会議」は市民の声が一番行政に生かせる場ではないでしょうか。また、一億円というお金についても、スタートは一億円をどう活用するかだったかもしれません。今はそれだけに止まらずまちづくりに発展しています。

「一億円の活用」と言ってしまうと枠にはめられて発想も広がらないですね」とも。

『さて一億円、実際にどうなったの?』

「この会議は、市民のまちづくりの話し合いの場です。今までこの様な形で市民がまちづくりに参加する機会はありませんでした。ところがこの会議は、市民と行政が同じ土俵に立って話し合えるのです。お願いや陳情ではなくお互いにやりとりしながらまちを考えて行くのです。まちの歴史や文化、産業や自然の特色を生かして、「こんなまちにしたい」と考え合うことで和が広がるのが大切なんです。同じまちに住む人として大勢の人と話をしたいですね。そして、まちづくりは行政だけの仕事ではなく、同じ立場で市民みんなが考え合うことだという意識を一人ひ

実際に使った基金は、四年間でおよそ六千万円。しかし、利息や寄付があり平成四年度末でおよそ七千二百万円が残っています。使った内容は、国内・海外研修の人材派遣事業や、ふるさと学習事業など。分かりやすい例を挙げると最近では、中学生の海外派遣ですが、どの事業もあの一億円が

いきいき人とまち推進事業

	平成元年度	平成2年度	平成3年度	平成4年度
人材派遣事業	国内研修(個人・グループ) 海外研修(個人)	国内研修(個人・グループ) 海外研修(個人)	国内研修(グループ)	国内研修(グループ)
地域活動事業	市内探訪バスツアー 市民公開講座	ふるさと学習事業 リーダー育成事業	ふるさと学習事業 まちづくりシンポジウム	ふるさと学習事業 文化振興事業
地域活性化事業		国際交流 鬼サミット	国際交流 鬼サミット クロスカントリー	市民・中学生の海外派遣 鬼サミット クロスカントリー
調査研究			C-1調査 鉱山自然探訪 福祉施設調査	鉱山自然探訪 研修センター等調査 福祉施設調査 福祉講演会

背景にあることは、市民には分りづらくありませんか。まちづくりの環境としての事業なのですから、「いきいき人とまち基金を活用した事業です」と広報紙などで一言添えてくれると分かりやすいですね。事業内容が人材育成という「形」には表せないことだけに、市民へのアピールも大切ではないかと思えます。「いきいき人とまち推進会議」自体も広報の手段を持っていないとのことですから、

行政側には是非お願いしたいというところですよ。

『これから...』

これから「いきいき人とまち推進会議」は、平成五年度いっぱいをめどに各部会が提言をまとめ(第六部会は提言済)、それが一つの区切りとなりそうです。しかし、



第2部会 中学生の海外派遣



第1部会 鉱山自然探訪会

これは、新しいスタートラインでもあると思います。一億円をめぐるスタートラインは、私達にふるさとを愛する心呼び起こし、私達を静かに育んできたこのまちの歴史や文化、風土に改めて目を向けさせてくれました。自分達のまちだからこその話し合い。その大切さを知った登別市には、市民参加のできるまちづくり会議としての「いきいき人とまち推進会議」は、欠くことのできないものとなるでしょう。



第4部会 西川 潔さん 福祉講演会

これからの会議の方向に期待するとともに、自分のこととして受け止める姿勢を忘れてはいけなないと思えました。私達のまちです。身近な人と「自分のまち」について話すことからまちづくりは始まると思いませんか。そして、次代を受け継ぐ子供達に是非「すてきなふるさと登別」を残したいものですね。

市民登場

友達の輪



恩返し気持ちでやっています

山川 一枝さん (64歳)
常盤町在住

昭和二十年、十七歳で教壇に立つたのね。今なら高校生でしょ、教えられる力量があった訳ではなくて、時代が時代だけに教える立場にならざるを得なかったのね。当時月給が四十円で、ほかの職業の方が高給だったわ。結婚して、「職業婦人は何もできない」と言われるのが悔しくて、生徒に直接関係ないことでも、何でも習いに行きました。

昭和六十一年に退職するまでの四十年間教師として過ごし、退職後、今までできなかったことを社会にお返ししたいと思ったのね。それで、何人かの子供の勉強を見てあげてるの。やっぱり、先生一人じゃ十分に教えきれないですわね。その子の個性やペースに合わ

せて教えていくことも大切で、そうやって私も一緒に勉強してるの。私自身、いろいろな習い事をしていたけれど、これだけはしなくて思っていることがあるのね。それは、教え惜しみをしないこと。子供達にも、私の分かることは、すべて教えていきたいわね。

やりたいことは、まだまだたくさんあるのね。今は、時間がたっぷりあるので、すぐできます。でも集中するのは夜で、十二時過ぎて寝ることも少なくなけれど、自分の生き方を思いのままにできる幸せを今、味わっています。

(リポーター 丸山由紀)

国民健康保険被保険者証の更新手続きを行います

現在使用されている被保険者証の有効期限は、四月三十日までです。忘れずに更新手続きをしてください。

▽持参するもの 旧被保険者証、印鑑、前年の所得が分かるもの(市民税等の申告がない場合)、在学証明書(修学のため他の市区町村に居住している場合)

▽問い合わせ 保険年金課(☎83307)

※当日は、納付相談と保健婦による健康相談(健康手帳をお持ちの方は持参してください)も行いますので、お気軽にご利用ください。

〈国民健康保険証更新日程表〉

月日	曜日	時間	地区	場所	
12月	月	10:00~16:00	登別東町・登別本町・登別港町・中登別町・札内町	登別支所	
13日	火				
14日	水	10:00~16:00	鉾山町・片倉町・川上町・富士町・新川町・柏木町	市民会館(中ホール)	
15日	木				
16日	金	13:30~16:30	富浦町・幸町	富浦会館	
		13:30~16:30	登別温泉町・中登別町・上登別町	温泉公民館	
		14:00~15:00	カルルス町・上登別町	カルルス婦人研修の家	
4月	19日	月	10:00~16:00	若草町・新生町・上鷺別町	若草つどいセンター
	20日	火			
	21日	水	10:00~16:30	美園町・上鷺別町	美園児童センター
	22日	木	10:00~16:30	美園町・上鷺別町	旭ヶ丘三恵園
	23日	金	10:00~16:30	栄町・富岸町・若山町・大和町	富浜児童館
	26日	月	10:00~16:00	鷺別町・栄町・美園町	鷺別公民館
	27日	火			
	28日	水	10:00~16:00	新栄町・子歳町・観別町・栄馬町・常盤町・中央町・坂木町・青葉町・緑町・外、上記の未更新の方	労働福祉センター
	29日	木			
	30日	金			

保険税が未納の方は早めに納付してください

消費者コーナー

リサイクルは盛んだけど...

北海道紙パック会は、「回収が困難になってきた鉄やアルミ、空きビンの二の舞にしないために」と再生紙製品の利用を改めて呼びかけています。

再生紙製品の代表といわれるトイレットペーパーは、下水道の普及で消費が毎年増えています。札幌市内の紙卸業者によると、道内で使用されるトイレットペーパーは、再生紙製品が七割程で企業や公共施設での利用が多く、家庭用だけみると、パーズンバル製品のシェアが更に上がりそうです。牛乳パックを回収している主婦に聞いても

十人のうち四、五人はパーズンバル製品を使用しているそうです。

消費者の清潔意識、高級品志向のほか、特売品の場合に再生紙製品とそれほど価格差がなくなったことなどが、パーズンバル製品人気の理由のようです。

消費者がトイレットペーパーの購入時に重視するのは「価格の安さ」が五十三割とトップで、

次に「肌触りの良さ」「再生紙利用」の順で、「紙の白さ」や「バルブ百割製品」は購入時の重要な要素にはなっていませんでした。

また、再生紙製品を購入した人達の理由は①リサイクルへの関心②肌触り③何となくの順でした。北海道紙パック事務局は、「再生紙製品の利用を活発にするためには、再生紙のトイレットペーパーを使って初めて資源のリサイクルになり、せっ



つかく紙パックを回収しても商品が利用されないとリサイクルのメリットが薄くなる。また、再生紙には、「グリーンマーク」がついています。一人でも多く再生紙製品を利用し、グリーンマークを集めましょう。

▽問い合わせ 登別消費者協会(☎83307)

再生紙製品の利用が伸び悩んでいます



富岸の開拓は、明治初期に片倉家の旧家臣鈴木留吉・西東勇吾らが馬の放牧を行ったが、平野地は沼沢地で馬は野地眼に落ちて足を骨折したり、ヒグマ・ヤマインの被害もあり、広大な原始の地で管理も行き届かず失敗、海岸では季節的に漁業も行われたが、開拓は放置された状態であった。

ところが、明治二十四年（一九一〇）香川県人磯野直七さん一家が国道沿いに入植した頃から屯田兵を退役した十数戸の人達が家族と共に富岸に入り、開拓の鉄を振るうことになるのである。

屯田兵制度の歴史は古いが北海道に関しても、近世の江戸時代にロシアの北方進出の脅威に対し、八王子千人同心百余名が寛政十一年（一七九〇）勇弘と白糠（釧路地方）に移住し警備開拓に当たっていたが結果は翌年で十九名の死亡者を出すという悲惨さであった。また、文化九年（一八〇八）樺太の警備に着任し、同地に屯所した津軽藩士二百五十余人中百二十人が寒気と食料不足で死亡している。明治以降も、武力を背景にしたロシアの勢力は、日本との共有地樺太に進出し、日本人の殺害・放火・暴行事件が相次ぎ、結果的に日本は樺太を放棄し千島全島を日本領として妥結した。樺太・千島交換条約で一応安定するが、ロシアとの対立は日露戦争終結まで続

いている。とにかく、北方警備と北海道開拓が、政府の思うように進まない状況での苦肉の策が、軍事と農業開拓を兼ねた屯田兵制度であった。通称「輪西屯田」と言われた兵の入植地は、鷺別村と輪西村（輪西兵村給与地配当調）で現在の室蘭市高砂町・宮の森・日の出・中島町三丁目などの全部、又は一部が鷺別村の行政区にあって、約九十戸が鷺別郡所屬ということになる。名称の輪西屯田は、最近室蘭屯田とも呼ばれているが、本輪



登別郷土文化研究会 宮武 紳一

入植したのは前記の通りである。ところが、屯田兵の出身地は、気候温暖な福岡・佐賀・兵庫・愛媛県なので、輪西屯田時代に少しは寒い気候に馴れたが、当時の富岸の低地帯は、現在の富岸川（ワシベツライバ川）が大きく蛇行し新生・若草・美園町に流れ、泥炭の大湿原地帯を形成し農業には適さない土地だったので、その後巨大な広葉樹林に丈なす笹などの下草やブドウ・コクワ類の太い蔓が絡み昼でも暗い密林である富岸川流域の西高地、富岸学田の方が開拓の中心であった。

学田の地名は、札幌を始め全道各地にあるが、小学校や大学などが所有した田畑で学稼運営の資金の代わりに与えられたものである。北大の前身札幌農学校は六学田をもち面積は六千坪もあった。現在の鷺別支所前通りの鉄道路踏切も「学田通り踏切」、美園町から山麓を富岸に進む通里も「鷺別学田路線」の名が残っている。さて、富岸町一丁目にある「富岸神社」は、屯田兵退役後富岸に入植した方が中心に、明治三十九年富岸町三丁目の山麓に建立したもので、中島神社の祭神を守護神としている。富岸小学校も明治二十九年屯田兵村ゆかりの、私立鷹別（知利別）尋常小学校富岸分校として、旧神社下方に開設されていたのも特異な存在であろう。

西・港北・中島・輪西地区は昔からワネウシ・ワニシで輪西村に所属していることによる。鷺別郡内の屯田兵給与地は、鷺別村トロボシナイ（トブシナイで竹が群生している沢の意味・美園・若草・新生町山手側）、イワリカナイ（山を廻っていく沢の意味で新生・西富岸山手）カロベツ（若山町四丁目西側）、その他札内もあつたが、現役・後備役を終えた石井方淑・竹中源兵衛・井元佐吉・副馬富五郎・藤原兵次郎ら十余名は、富岸に兵村給与地を与えられ、

入植したのは前記の通りである。ところが、屯田兵の出身地は、気候温暖な福岡・佐賀・兵庫・愛媛県なので、輪西屯田時代に少しは寒い気候に馴れたが、当時の富岸の低地帯は、現在の富岸川（ワシベツライバ川）が大きく蛇行し新生・若草・美園町に流れ、泥炭の大湿原地帯を形成し農業には適さない土地だったので、その後巨大な広葉樹林に丈なす笹などの下草やブドウ・コクワ類の太い蔓が絡み昼でも暗い密林である富岸川流域の西高地、富岸学田の方が開拓の中心であった。

室蘭市

字を書く人気者のトドがみんなを待ってるよ
四月十八日
室蘭水族館オープン

今年新しい遊び仲間の「フアアベンギン」もよい子のみんなを待ってるよ。十八日(日)の開館日は、先着二百人の親子に記念品をプレゼントします。
▽開館期間 四月十八日(日)から十月三十一日(日)まで

※期間中は無休です。
▽時間 午前九時十五分から午後四時四十五分まで
▽入場料 小・中学生六十円、大人二百五十円
※遊具施設の料金は五十円から二百円です。
《トドの餌付けショー》
豪快な輪くぐりや鈴割り、史上初の文字書きなどを見せつけてくれるよ。
▽シヨウタイム
平日：午後一時、日曜日・祝日：午前十一時と午後一時
※くじらコーナーもあります。
▽問い合わせ 室蘭市立水族館 (☎01638)

となりまちほっとライン

道内高校サッカーの強豪を迎えて例年開催している「春の合宿村まつりサッカーフェスティバル」。今年から新たに伊達スプリングカップ

か、中学生の部も加わりました。みなさんの熱いご声援をお願いします。
▽日時 四月十日(土)午後二時三十分から一回戦競技開始
四月十一日(日)午前九時準決勝以上の競技開始
▽会場 《高校の部》伊達高グラウンド、舟岡運動広場
《中学の部》伊達中グラウンド
光陵中グラウンド
▽参加校 《高校の部》室蘭大谷、登別大谷ほか六校
《中学の部》鷺別中ほか七校
▽問い合わせ 春の合宿村まつり実行委員会事務局(伊達市企画審議室 ☎0142-3333)

春一番の

サッカーフェスに

ご声援を

伊達市

1)